

会長メッセージ

4年前に患ったリンパ腫が再発して、現在入院治療を行っています。半年近くかかりそうで、皆さんにはいろいろとご迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。病気になるって、改めて、健康の大切さを感じております。早く皆さんの前で、弓の引けるのを願いながら治療に専念したいと思えます。奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

◆第2回審査講習会

10月27日(日) 橿原公苑弓道場において、標記の講習会が行われ、参加者32名が各々の目標を目指し、課題に取り組みました。今回、療養中の吉本会長に代わり、須田副会長が主任講師を務められ、西浦指導部長と共に、中央審査に向けて、ご指導いただきました。

一つの射礼、持的射礼の講評で、射礼では、動作の完全一致が必要であり、呼吸を合わす事で動作も一致する。しかし、審査で前の動作が速く、呼吸が合わない時は、無理に前に合わせると、気を使いすぎたり、息合いを乱されたりして、射技に集中できなくなるので、自分の呼吸で進み、自分の射を大切に、自分の射に命を賭ける所存で臨むべきである。動作の一致には、大前の役割が大きい。大前は大前の役割を自覚し、実行しなくてはならない。審査を受けるにあたり、はじめは「合わせる」に照準を置き、稽古に稽古を重ね、「合わせる」が「合う」になる。そうやって初めて受審するに至るのではないかな。審査員に対して、見てもらう気持ち、見せる気持ちを持って、見てもらう為の気使い、見られる為の準備を怠らない事。との注意がありました。

午前中の講話では、最近の厳しい審査状況についてのお話があり、合格の為の必要条件として、「基本体・基本動作」では、1 執り弓の姿勢 2 目遣い 3 歩行 4 呼吸と動作の一致→他の射手との連動。「射技」では、1 不動の三重十文字 2 不動の頭持ち(物見) 3 八節の流れ 4 緩みのない会 5 伸び合い 6 矢線に沿った一文字の離れ(軽妙な弦音) 7 束中 8 美しい残身 9 弓倒し。を挙げられました。

午後の射技研修では、不動の十文字・打起し、大三で縦線の意識・引分けで縦横の十文字を意識すること・両肩、両肘を扇形に開いていく感じ。と、「緩みのない会」・会で無理に伸びようとしない・弓力に応じた力で軽く押し開く・拳に力を掛けない・弓手の肘にわずかの余裕を持たせる気持ち。を重要課題として取り組みました。

仕上げ行射では、研修の成果を見てもらう気持ち、見せる気持ちを持って行いました。講師の先生方、本当にありがとうございました。(指導部 松村由喜子)

◆第37回近畿地域弓道大会

平成25年10月6日(日) 於: 京都市武道センター

大会結果(敬称略)

団体男子 優勝 奈良G(山口・鈴木・新子)

団体女子 優勝 奈良F(土谷・福本・中西)

個人男子 優勝 山口亮二(奈良県)

4位 衛藤博史(奈良県)

個人女子 4位 中西美津枝(奈良県)

第2回世界弓道大会(パリ)近畿地域代表

山口亮二・衛藤博史(奈良県)

寒露を二日後に迎えるというのに少々汗ばむ日差し。京都で上記大会が開催され、参加者多数の中、奈良県勢は男女とも団体優勝。個人でも山口選手の優勝を含め3人が入賞し近畿の府県より4人選抜される世界大会への選抜選考に2人が奈良県より抜擢されました。

私事ですが私達奈良Fの女子チームは、今回この競技の為に立ちを組む・時間を計る、等々の練習をする余裕もなく慌ただしく大会に臨んでしまいました。控えでは主催者より度重なる「進行の遅れが酷く、時間短縮の協力を！」との声を聞きながら、「少しでも協力しようね。」と話し、焦る心を抑え射場へと入りました…そんな中今回団体優勝の栄誉を頂くことができたのは、普段の同・後輩との練習、常よりの先生方・諸先輩より頂くご指導の賜物と思えます。

奈良市では大小の大会が開催され、射位に立てるようになれば誰でも気軽に参加でき、橿原での県行事にも早くから誘って頂きます。その中で失敗を重ね、早くから競技での間合いを体得したように思います。又、見取稽古や普段の練習で他の二人の息合いを了解しているので、あとは行射に集中出来た様に思います。

私は「落ち」で射場に一人残りでしたが「今ここ」を大切に余裕が湧き、チームに貢献出来ました。個人では八寸的を外し、遠近に臨みましたが、的には遠く及ばず、力のなさを痛感。弓を引くということは形の美しさは勿論ですが、中る為の強さが必須。美しく強くあらねばと心に刻みました。

道場で根気よく同じことを何度もご指導下さる先生。これからも変わらずご指導頂けます様に。私達も頂く言葉を取り溢さず吸収するよう努力します。

最後に長時間ご臨席いただきました吉本先生、奈良の先生方にお礼申し上げます。そして遅くまで会場に残り喜んでくれた弓友に心から感謝します。

(文責・中西)



祝

本会副会長・理事長の西中 正氏が平成25年11月10日の全弓連定期審査会(東京)にて七段に合格されました。おめでとうございます。

◆第32回全国高等学校弓道選抜大会兼

第21回近畿高等学校弓道選抜大会県予選会

日時 11月2日(土)、4日(月) 橿原公苑弓道場

参加者 女子 団体19チーム 個人106名

男子 団体19チーム 個人111名

予選 団体戦(3人立)は各自8射でチーム的中数上位6チーム予選通過。

個人戦は各自8射で女子4中以上、男子5中以上で予選通過。個人通過者 女子34名 男子32名

決勝 団体戦は6チームによるリーグ戦。

個人戦は各自4射3中以上で射詰め競射

女子個人

- 1位 直鳥 友香(奈良北) 2位 山野 宏子(郡山)
- 3位 金川 知未(畷傍) 4位 山下 未紗(高田商業)
- 5位 大石 萌(平城) 6位 弥富 舞羽(高田商業)

男子個人

- 1位 川北 佑輔(畷傍) 2位 生田 晃樹(王寺工業)
- 3位 北林 崇(橿原) 4位 高尾 晃平(畷傍)
- 5位 松本 浩幸(橿原) 6位 西田 智彦(奈良北)

女子団体

- 1位 橿原高校
西川佳那・伊藤ほの香・平井千愛・長倉瑞恵
- 2位 郡山高校
山野宏子・尾崎莉乃・森早由奈・水谷友香
- 3位 王寺工業高校
栗田晶捺・葭川奈実子・西岡綾子・成瀬茉樹

男子団体

- 1位 王寺工業高校
米田昂史・岡田祐来・生田晃樹・大西秀和
- 2位 奈良高校
橋本龍汰・貴島亮・八田遼介・谷本真哉
- 3位 橿原高校
木下久恩・北林崇・松本浩幸・江澤翔

技能優秀賞 女子 西川佳那(橿原)

男子 松本 浩幸(橿原)

男女個人1・2位と団体1位校は、12月21～23日に大阪市で行われる全国高等学校弓道選抜大会への出場権を得ました。また、男女個人1～6位と団体1・2位校は、11月17日に京都市で行われる近畿高等学校弓道選抜大会への出場権を得ました。(高体連)

◆“ねんりんピックよさこい高知2013”に参加して

弓道交流大会が新築の高知県立弓道場で全国から71チームが参加して2日間に亘って開催されました。奈良県からは森川、斎藤、仲、能島、赤松の5名で参加しました。結果は15中(40射)で予選通過の20中(半矢)に届かず決勝進出は叶いませんでした。

決勝戦では石川県が14(20射)の的高の中で優勝の栄冠を手に入れレベルの高さを示しました。93歳の藤原定子範士八段(最高齢者賞受賞)を含む高知県Aチームは5人の年齢合計が418歳と紹介され、会場は盛大な拍手に包まれました。あらためて生涯続けられる弓と出会ったことに喜びを感じ感謝しました。

大会を通じて小学生から高齢者まで多数のボランティアが参加され「高知県は一つの大家族やき。高知家」を合言葉に、暖かいもてなしをうけ感激しました。弓道場控室では地元高校生と気配り係りの女性から終日お世話をうけ、また総合開会式では小学生から手作りの応援幕のプレゼントや応援メッセージ等世代を超えての親睦を深めることができました。他府県選手はもちろん地元の方との楽しい時間など交流の目的は達成です。

(赤松順次)

◆第16回 奈良県弓道近的選手権大会

日時：平成25年11月3日

場所：奈良市弓道場

参加者数：(男子)59名(女子)54名

競技内容：近的16射

大会結果：

(成年男子の部)

- 1位 辻本 元威 15中 (香芝)
- 2位 新子 修平 14中 (五條)
- 3位 乾 光孝 14中 (香芝)

(成年女子の部)

- 1位 西田 ゆり 13中 (奈良)
- 2位 奥戸 由美 13中 (郡山)
- 3位 揚田よう子 12中 (奈良)

(競技部)

◆スペイン訪問記

このたびスペイン弓道連盟からお誘いがあり、新司、深田、阪中の三名でスペインの研修会に参加してきました。



サルバトーレ氏にはじまり、ホセマリア前々会長、ベレンヌ前会長、この度のセップ会長とつながりの長い中で、

(次頁に続く)

(前頁から) 昨年の奈良市武道交流使節団のスペイン訪問が引き金になって実現したものです。スペイン弓道連盟の主催する研修会で講師としての参加でしたが、「一緒に勉強しましょう」という、新司主任講師の挨拶で始まりました。遠くカナリア諸島やマヨルカ島、隣国のポルトガルからも含めて47名の参加でしたが、施設や指導者にも恵まれないなかで、大変熱心な二日間でした。



場所は
マドリ
ッド郊
外のス



ポーツ専門学校の体育館を利用し、5人立ち2射場の仮設道場で、前日の夜12時すぎまで準備に余念がありませんでした。研修内容はセップ会長と前もって相談し、矢渡しのものち、一手行射、射技研修、射礼研修、基本体など、スペイン会員の方々にとって必要なメニューを盛り込むようにしました。

初日の終了は夜8時でしたが、そこから深田講師を中心にたすき掛けをはじめ、女性のみ所作研修が9時半まで続きました。また研修会最後の仕上げ行射では、みなさん見違えるようになって、来年は奈良にぜひ行きたいとの言葉で締めくくっていただき、マドリッドをあとにしました。

スペイン滞在中、セップ会長と奥様には、研修日以外でも大変お世話になり感謝申し上げます。

今後のスペイン弓道連盟と奈良県弓道連盟の交流が深まることを期待し、スペイン道中のご報告とします。

(阪中)

◆古代行事の再現「射礼」平城京天平祭・秋2013

平城宮跡で、11月2日(土)から10日(日)まで、秋の祭典が開催されました。

初日11月2日に、古代行事の再現として「射礼」を第一次朝堂院内広場(大極殿南側)で行うことになりました。小笠原宗家をはじめ近畿各地から小笠原教場の同門が集まり、県連盟会員(主に奈良市弓道協会)の協力を得て46名で執行しました。

午前11時から、奈良時代に行われた「射礼」を墓目式、大的式の形式により再現しました。大的式では『年中行事絵巻』射遺に描かれた姿に基づき、網代的2基、山形2基が設置されました。(右上へ)

まず全員が当日の役割にあった奈良時代の装束で資料館前に整列しました。太鼓の合図で衛士隊を先頭に会場まで行列し、所定の場所に着きました。

鐘の音を合図に墓目式が始まります。張り詰めた空気の中、墓目射手が射位に進み、諸役も所定の位置に着きます。墓目射手の放った鳴り鐘の「ピュー」という澄んだ鋭い音に観客の間に驚きの声があがりました。

大的式は、6名の射手が前弓と後弓の2組に分かれ、しょうみょう唱名に名前を呼ばれた射手が前弓と後弓から1名ずつ射位に出て、作法通り一手射ます。的の中白に中ると鐘を3つ、外黒に中ると1つ、その間は2つ鳴らし、外れると太鼓を鳴らします。各射手は、普段の衣装と違い奈良時代の装束のため、打起して装束が膨らみ胸を払って苦勞しておりましたが、矢が放たれ、的に中るときに観客から大きな拍手が起こりました。

大的式が終わると、再び列立して控え所までもどります。最後まで緊張は解けません。



午後2時30分からは、鎌倉時代の装束で百々手式を実施しました。午前中とは諸役も変わります。射手は、前弓10名、後弓10名で網代的1基、山形1基を使用しました。

百々手式では、まず前弓射手がそろって射位に進み甲矢を番え、前から順に五月雨式に射放っていきます。乙矢もこれに倣います。

広い平城宮跡なので距離は約40メートル、勝手が違うのか、的中はいまひとつ。しかし、的に中ると拍手が起こり、特に後弓の乙矢の中りは素晴らしく、大きな拍手とともに観客のどよめきが聞こえました。

また、会場の隣は弓道体験をする人たちでにぎわっており、体験されたみなさんは、的中の難しさ等実感されたことでしょう。(深田 紀美子)



編集後記

本誌編集集中に西中さんの“合格”という吉報が入りました。おめでとうございます。今月の「だより」にも、たくさんの会員から投稿いただきました。今月掲載できなかった原稿については次号に掲載させていただく予定ですのでお許しください。療養中の吉本会長におかれましては、完治され、すばらしい弓姿を拝見できますことを一同心待ちにしています。